

年頭にあたって

社団法人日本物流団体連合会
会 長 岡 部 正 彦

明けましておめでとうございます。

2009年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年日本経済は、非常に波乱に満ちた年でありました。原油高、円安、株安で始まった状況は、その後事業者の経営努力では如何ともしがたい燃料高となり、対応に苦慮する事態となりましたが、それにも増して、米国に端を発したサブプライム問題の余波が实体经济に広がり、世界規模での景気悪化へと突き進んでおります。

これは、サブプライムローンといった金融商品の破綻が引き金となり、金融危機を招いたことによりますが、リーマン・ブラザーズの破綻以降世界同時不況に見舞われ、ここに至る日本経済の状況も昨年12月の日銀短観におきましても記録的な落ち込みを見せるなど、企業は総じて景況感の悪化を訴える状況となっております。实体经济がこれほど急速に落ち込むのも、グローバル経済の進展で危機の波及スピードが相当に早くなっていることが考えられます。

私共物流事業者への影響も大きく、昨年11月の貨物量は各種統計でも大幅な減少となり、12月に入っても同じような状態が続き、産業景気の底が見えにくくなっていることから、なかなか先が見通せる状況にはございません。

本年はこの世界規模での不況に立ち向かうことが必須の状況となりますが、回復までに相当な時間を要することも念頭において、私共物流事業者が手を携えて対応していく必要があると考えております。このように会員各企業が厳しい状況に置かれている現状も踏まえて、私ども物流連もさまざまな活動をしてまいります。

景気回復にかかわる取り組みとともに、従前からのテーマである運賃・料金問題、環境・安全規制、人材の育成等とともに、中長期的な対応が必要な地球温暖化対策や少子高齢化に伴う労働力不足といった課題に取り組んでまいりたいと存じます。この中で、荷主と物流事業者が協働してCO₂の排出削減に取り組むための「グリーン物流パートナーシップ会議」についても引き続き国土交通省等とともに運営主体として積極的な役割を果たしてまいります。

さらに、このグリーン物流パートナーシップ会議に関連して、国土交通省、経済産業省の後援を得て、昨年より当連合会が実施しております「グリーンロジスティクス推進フォーラム」につきましても、引き続き積極的に開催してまいります。

本年は、行政サイドでも2010年代に向けての物流戦略の策定について、検討が進められているところでありますが、「国際・国内一体となった質の高い物流の確保」と「グリーン物流の深化」がキーワードとなって、新たな物流施策のあるべき姿が明らかにされようとしており、私共にとりましても誠に心強い限りであります。

このように厳しい経済情勢が続くことが予想される中で、物流業界、物流連の課題は山積しておりますが、今後とも会員の皆様のご意見・ご要望や行政・産業界をはじめ広く一般の方々のご要望・ご提言に真摯に耳を傾け、さらなる活動の強化に取り組んでまいりますとともに、引き続き物流業が国民生活、経済活動のライフラインであるという自覚と活動を通じて、等身大の評価をして頂けるように一層努力してまいりますので、皆様の暖かいご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年1月1日